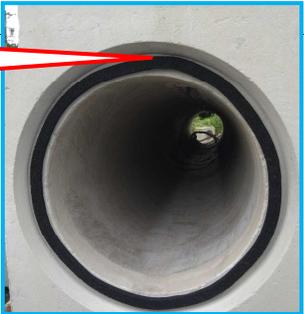


箱形パイプ JS-30V(N) 施工要領書

番号	項目	要 領														
1	吊り方	<p>*用意して頂くもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤー 2本 (φ12mm以上×1m程度、外れ止めフック付) ・インパクトレンチ(ソケット24mm) 又は スパナ(24mm) <p>JS-30V(N)用吊り具は、製品長 2m と 1m (曲線用 9R・12R・18R) に対応しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p style="background-color: yellow; text-align: center; margin: 0;">JS-30V(N)用吊り具</p>  </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">写真のように、2点吊りでご使用下さい</p>  </div> </div>														
2	布設準備	<h3 style="text-align: center;">接合部の止水</h3> <p>* 止水材の名称 オブシーラー [合成ゴム発泡体シール材]</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p style="color: red;">オブシーラー</p>  </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;">  </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p style="color: red;">結び目を上に</p> <p style="color: red;">ソケット側 フラット面の 中央に貼付</p>  </div> </div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>オブシーラー サイズ</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>t 10×15×1000</td> <td>・直線部製品標準セット品</td> </tr> <tr> <td>t 15×20×1000</td> <td>・直線部、曲線部製品標準セット品 ・エスフリー用桧標準セット品</td> </tr> <tr> <td>t 25×15×1000</td> <td>・曲線部で目地が大きい場合</td> </tr> <tr> <td>t 40×15×1000</td> <td>・半管を18Rで使用する場合</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(1接合当りに必要な シール材の本数)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>1ヶ所当たりの必要本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ 300</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> ① ウェス等で、オブシーラーを貼付けるソケット面のホコリを落として下さい。 ② オブシーラーのはく離紙を剥がし、写真の様につなぎ目が上にくる様に貼付けて下さい。 ③ 目地の開きは、通常1～2mm程度で、最大7～8mmを限度とします。それ以上の開きが見込まれる場合はカーブ材のご使用をご検討下さい。 	オブシーラー サイズ	備 考	t 10×15×1000	・直線部製品標準セット品	t 15×20×1000	・直線部、曲線部製品標準セット品 ・エスフリー用桧標準セット品	t 25×15×1000	・曲線部で目地が大きい場合	t 40×15×1000	・半管を18Rで使用する場合	呼び径	1ヶ所当たりの必要本数	φ 300	1
オブシーラー サイズ	備 考															
t 10×15×1000	・直線部製品標準セット品															
t 15×20×1000	・直線部、曲線部製品標準セット品 ・エスフリー用桧標準セット品															
t 25×15×1000	・曲線部で目地が大きい場合															
t 40×15×1000	・半管を18Rで使用する場合															
呼び径	1ヶ所当たりの必要本数															
φ 300	1															

		コンクリート基礎	砕石基礎
3	布設		
		<p>① 丁張りは、車道側の天端に合わせてかけて下さい。又、ヌキ板等で作った水平定規を使用すると便利です。</p> <p>② 基礎コンクリートの上に敷きモルタルを敷き、箱形を布設します。</p> <p>③ 接合時に、敷きモルタルがかまないようにご注意下さい。</p> <p>④ 高さの微調整をキャンバー等で行った後、箱形底部にすき間ができないようモルタルをつめ込んで下さい。</p> <p>⑤ 目地の開きは通常1～2mm程度で、カーブ部等で目地が大きく開く場合にはモルタル目地を施して下さい。</p> <p>⑥ 箱形は、右車線用・左車線用の区別がありませんので、反対車線ではオス・メスが逆になります。上流側・下流側どちらからでも施工できます。</p> <p>* 長さ調整で箱形を切断した場合は、コンクリート断面及び金具断面にエポキシ系の塗料等で防錆処置をお願いします。</p>	<p>② 砕石基礎の場合は転圧後、モルタルで高さの微調整を行って下さい。</p> <p>* 別売のプレートを、接合部に使用しますと、施工がスムーズに行えます。</p>
4	埋め戻し	<p>① 埋戻しは、沈下防止のためよく締め固めて下さい。</p> <p>② 表層の舗装時には、ローラーが箱形の縁辺に乗らないように少し高めに施して下さい。</p>	
		<p>① 雑草防止のため、右の写真のように歩車境ブロックと箱形パイプの隙間は目地込み(モルタルの充填)をお願いします。</p> <p>② 目地込み箇所以外のモルタル付着を防止するため、スリット部に養生テープのご使用をお勧めします。</p> <p>* 右の写真のように、別売の「目地フォーム」を使用すると施工性が向上します。</p> <p>ご利用の際は、営業担当にお問い合わせ下さい。</p>	
5	目地込み	<p>* 右の写真のように、別売の「目地フォーム」を使用すると施工性が向上します。</p> <p>ご利用の際は、営業担当にお問い合わせ下さい。</p>	